

令和 6 年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

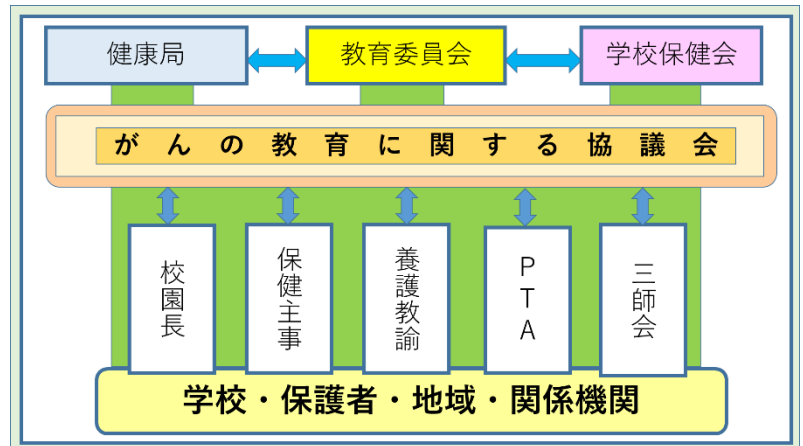
① 協議会について

1. 構成員

14 名

－内訳－

- ・医師（内科）2 名
- ・歯科医師 1 名
- ・薬剤師 1 名
- ・がん患者の会（外部講師）1 名
- ・保護者 1 名
- ・神戸市健康局 2 名
- ・学校長 3 名（小学校、中学校、高等学校）
- ・養護教諭 1 名
- ・教育委員会事務局 2 名



2. 開催時期、検討内容

○第 1 回協議会

日時：令和 6 年 7 月 25 日（木）16:00～17:00

会場：神戸市総合教育センター806 号室

出席人数：12 名（構成員 9 名、事務局 3 名）

－協議内容－

- ・令和 5 年度がん教育の取組報告
- ・令和 6 年度がん教育等外部講師連携支援事業の説明
- ・令和 6 年度がん教育の計画
 - がん教育研修会
 - 推進校の選定
 - 外部講師連携
- ・神戸市作成リーフレットの活用について

○第 2 回協議会

○第 2 回

日時：令和 7 年 1 月 9 日（木）16:00～17:00

会場：神戸市総合教育センター801 号室

出席人数：14 名（構成員 11 名、事務局 3 名）

－協議内容－

- ・がん教育研修会報告
- ・推進校（渚中学校）での取組について報告

- ・推進校（藤原台小学校）での取組について報告
- ・「がん教育 外部講師 協力団体紹介一覧」紹介
- ・今後のがん教育推進の報告について（意見交換）
- ・ふりかえりアンケート依頼

② 教育委員会としての取組

- ・市立小中学校に向け、様々な機会を利用してがん教育推進校について説明し、立候補を募った。
- ・推進校2校の取組に対し、外部講師の派遣のほか、教材等の購入などの支援を行った。また、過去の推進校に対し、取組が継続できるよう、必要な教材購入の支援を行った。
- ・がん教育実施のヒントを得ていただくことを目的に、がん教育研修会を実施した。①授業者になりうる教職員等ががんに対する正しい知識を得る、②外部講師によるがん教育実施に関する理解の推進といった効果が得られた。
- ・リーフレット『KOBE がんガイド 2025 中学校版・がんについて考えよう』を作成（令和7年度市立中学校2年生全員に配布）。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・「神戸市がん対策懇話会（神戸市健康局主催）」に関係部局として出席し、がんに関する教育を含め、神戸市のがん対策を進めるにあたり、がんの専門家、学識経験者や関係機関から、がん対策の在り方等への助言を得た。
- ・リーフレット『KOBE がんガイド 2025 中学校版・がんについて考えよう』作成にあたり、最新データの提供や健康局としての意見をいただいた。

（2）モデル校における取組

① 神戸市立渚中学校の取組 がん教育講演会（体育保健科・保健領域）

1. 日 時 令和6年12月11日（月）10:30～
2. 場 所 体育館
3. 対 象 2年生、教職員、がん教育関係者
4. 内 容 講演会 演題 「いのちについて考える 小児がんの子どもをもったお母さんのお話
～だれもが暮らしやすい社会づくり～」
講師 チャイルド・ケモ・ハウス 田村 亜紀子 氏



② 神戸市立藤原台小学校の取組

学校保健委員会「命をみつめよう～がん教育から考える命の大切さ～」(特別活動・学校行事)

○講演会

1. 演 題 「いのちについて考える 小児がんの子どもをもったお母さんのお話
～だれもが暮らしやすい社会づくり」

講 師 チャイルド・ケモ・ハウス 田村 亜紀子 氏

2. 日 時 令和6年12月18日(水) 10:40～

3. 場 所 体育館

4. 対 象 全校生徒、教職員、学校医、保護者、がん教育関係者



○保健委員会による取り組み

お昼の放送の時間に保健委員会の子供たちが、自分たちが調べたことをパワーポイントにまとめて、全校生にがんの知識について発信した。(一部を抜粋)



(3) その他

① リーフレット「KOBE がんガイド 2025 年度版・がんについて考えよう」の作成

- ・ねらい：中学生が学校で学習した「がん」のことについて、保護者と話し合うきっかけとして活用することをイメージして作成している。「がん」についての正しい知識をもとに、早期発見、早期治療への意識を高められるようにというねらいがある。

② 「がん教育実践事例集 Vol.10」の作成

- ・ねらい：がん教育推進校の取組を紹介することで、次年度の各校におけるがん教育の取組の活性化を図っている。神戸市立の全学校園に配布予定。

2. 事業の達成度について

【目標に対しての成果】

○教職員及び外部講師に対する研修会の開催

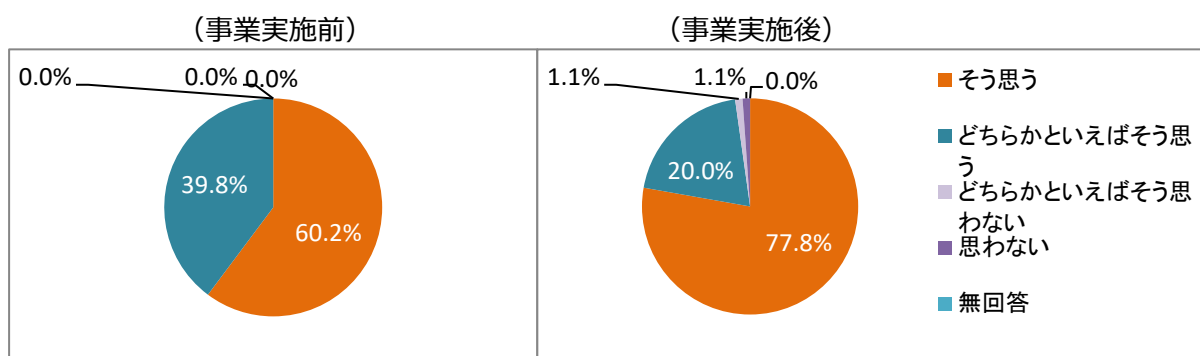
- ・外部講師登録者の医療関係者による講演会と、がん経験者による講演会を実施した。
- ・研修会後の医療関係者による講話のアンケートには、「がんの罹患及び治療の現状をデータを基に詳しく解説していただき、最新状況を把握することができました。また、生活習慣で気を付けるポイントも説明していただき、改めて予防の大切さと学校教育で子供たちに伝える必要性を学ぶことができました。」等、がん教育の必要性を実感し前向きにとらえている感想が多かった。来年度の取組みに関して具体的に意欲を示した参加者もいた。
- ・研修会後のがん経験者による講話のアンケートでは、「前半の講演のがん専門医からの視点と違うお話が聞けたことがとてもよかった。生活する上での困っていること、課題にも触れていただきより広くがんについて考えることができた。また、教員に向けたメッセージもいただくことができ、これからがん教育を進めるうえで外部講師として大きな力になっていただけたのではないかと思います。」等、授業者としての視点だけでなく、「がん患者・がん患者家族の支援者」としての視点での学校の役割について考える機会にもなった。

○推進校での研究授業、学校保健委員会等の成果について発信

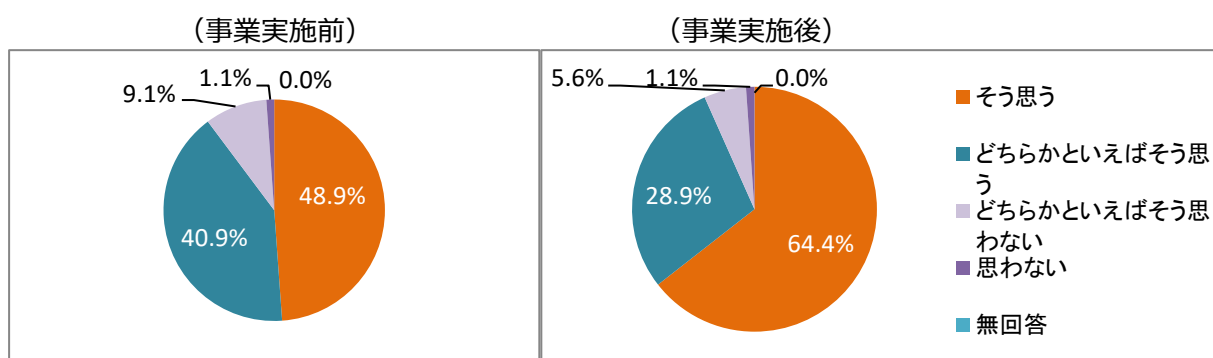
- ・推進校2校での取組等を掲載した「がん教育実践事例集 Vol.10」を作成し、年度末に神戸市立学校園に配布予定である。今年度の推進校の取組においては、Vol.1～9の内容も参考にしており、来年度以降についても活用されることが期待される。
- ・また推進校の取組前後のアンケート結果も紹介し（下図参照）、行動変容への意欲、がんに罹患することに対するイメージ、がん患者に対する共感的理解などの面で前向きな変化が見られていることも示しており、各校での取組の後押しになることを期待している。

図：推進校における生徒の意識の変化（「事例集」より抜粋）

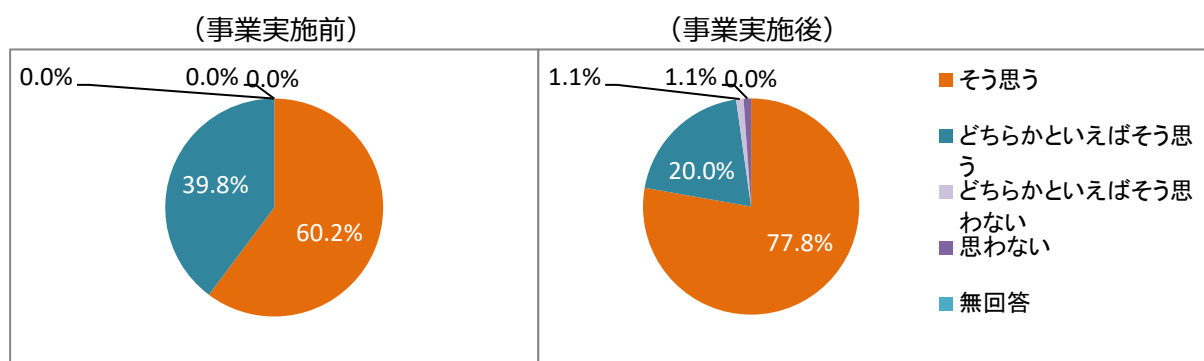
Q.日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。



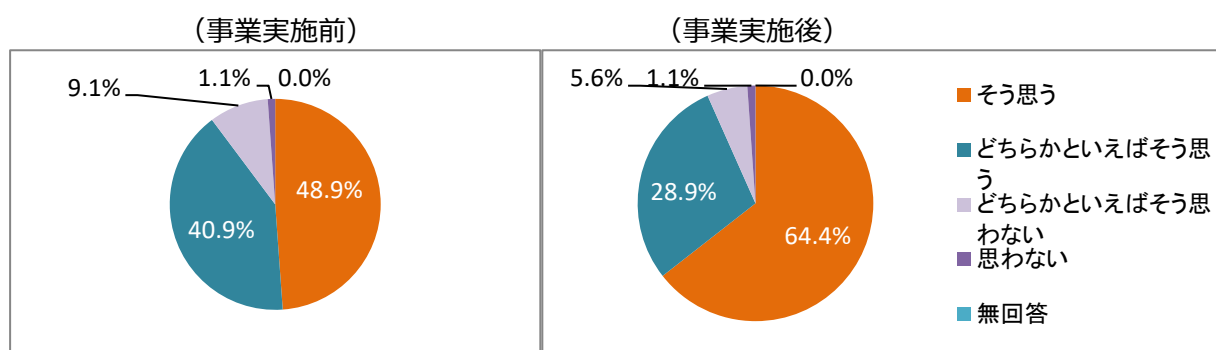
Q.がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。



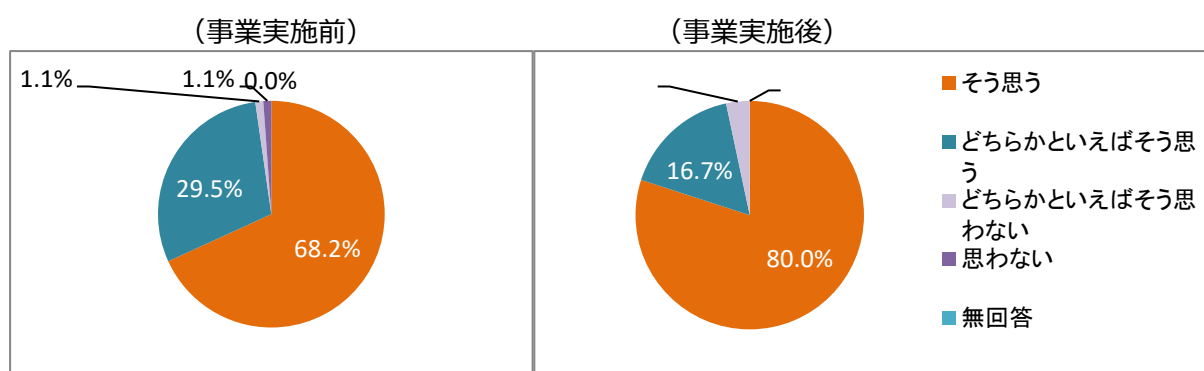
Q.日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。



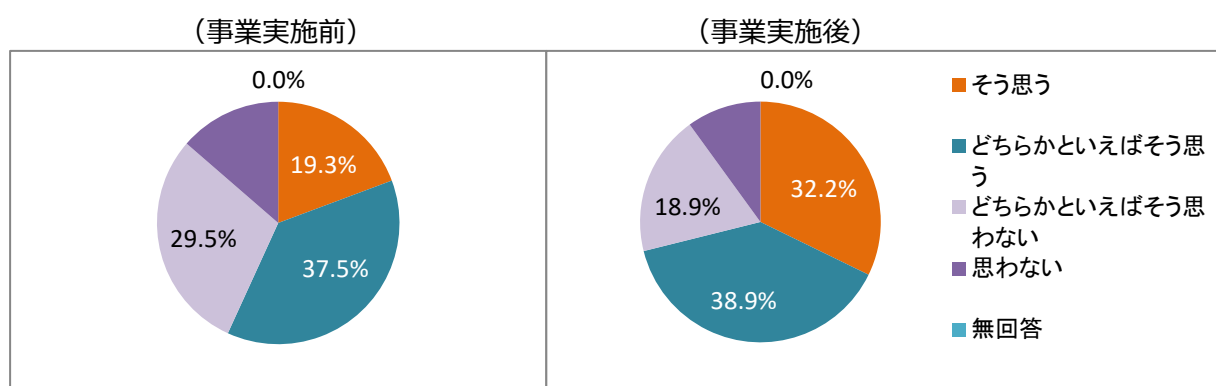
Q.がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。



Q. がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。



Q. がんになっても生活の質を高めることができる。



○子供たちのがんに対する認識の変化

- ・がんについて学ぶことができてよかったです。小児がんは自分自身にもかかる可能性があると分かりました。自分が病気にかかってしまったときに家族や親せきの存在も大切だけど、それだけでなく友達が存在が大切だと分かりました。普段、普通に生活しているけど普通ができない人たちもたくさんいると分かったから 1 日 1 日を大切に毎日を楽しんで生活していこうと思いました。
- ・がんは誰でもなる可能性がある病気であり、突然今まで通りの生活ができなくなるかもしれないことが分かった。がんになったからといってみんなと差別されることはあってはならないし、みんなと少し違っていてもまわりが受け入れていくことが大切だと思った。今回の講演でもっとがんについて知り、理解を深めたいと思った。

○外部講師リストの更新

- ・今年度新たに 2 団体に事業説明を行い、リストに追加した。

○がんリーフレットの作成

- ・保健部局に協力いただき、新しい統計情報を使用し、神戸市のがん検診や HPV ワクチン接種に関する情報も掲載して作成済み。令和 7 年度の市立中学校 2 年生に配布予定である。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○外部講師の充実に向けて

令和 5 年度は、外部講師向けの研修については未だ課題がある状況であったが、今年度は、がん教育研修会や推進校で外部講師を活用した授業の際、他の外部講師にも情報提供し、講師の授業を参観できる機会にできるようにしてきた。昨年度に比べ、多くの外部講師の方々に参加していただけたが、推進校自体の数が少なく、外部講師の方々に活躍していただける場が少なかった。来年度は、推進校の数を増やし、ニーズに応じてより多くの外部講師の方々が活躍できるようにしていきたい。

○がん教育に対する教職員の意識への働きかけ

今年度実施した「がん教育研修会」の感想からも、学校教育においてがん教育を進める意義を感じて意欲を高める教職員が多くいた。しかし、どのように進めればよいのか実際には戸惑っている教職員も多数いることが分かった。まずは、がんに対する知識を多くの教職員が得る機会を多くするとともに、管理職や保健主事のような、各学校のカリキュラムマネジメントにおいて主導的立場になりうる職員を中心に、がん教育の目的および成果について啓蒙していく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

各校の健康課題は様々で、その学校の子供にとっての喫緊の課題をテーマとした健康教育が行われるべきだと考える。がん教育以外にも多くの取組が求められている学校の現状を考えると、モデル校以外での取組を広げていくことは容易ではない。

年度初めに各校より「学校保健計画」が提出されるが、その中で示される「学校保健委員会」のテーマが、各校がその年度に優先する健康課題ということになる。その中でも、「がん」をテーマにしている学校があれば、早い段階で支援や協力を含む情報提供を行う。そして、取組に意欲的な学校を把握し支援することで、実践の裾野を広げていきたい。